

琉球病院 Monthly



独立行政法人
国立病院機構 琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.79
2019. July

発行者 琉球病院事務部長
秋好 輝雪

基本理念 この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

琉球病院 チャーびら祭開催

行事委員会

平成も31年の幕をおろし5月1日から新元号、令和となりました。当院の皆様や私達、行事委員にとっても令和初のイベントであるチャーびら祭は6月13日に開催され、100名を超える患者様に参加いただき、盛大に盛り上がりました。

プログラムは院長による開会のあいさつに続き、琉星保育園のダンスから始まりました。かわいい園児のダンスを観て、会場にいた皆さんに笑顔が溢れ、手拍子が沸き、楽しむ姿が見られました。ピアノと三線のコラボでは躍動感のある音色が奏でられ、ある曲が始まると、なだそうそうする方もいたそうです。午後のカラオケ大会では、参加者の歌声が響き、会場にいた皆様が素晴らしい歌声に聞きいってました。

今回から体育館前方のステージを活用したところ、ステージ前で応援をする方や、曲に合わせて踊りだす方もいて、これまでとは違う盛り上がりを見せたチャーびら祭になりました。看護部長のあいさつをもって幕を閉じ、時間を惜しみながらの閉幕になりました。今後もどのようにすれば楽しんでいただけるのか、患者様みなさんに笑顔を提供できるよう、行事委員一同、工夫を重ねていきたいと思っております。



トピックス

教育・研修

- CVPPP(包括的暴力防止プログラム)院内フォローアップ研修

日時: 2019年7月22日(月) 9:00~17:15

● 地域医療連携室だより

当院の地域医療連携室にはソーシャルワーカーや精神保健福祉士が在籍しており、主に初診相談や入院相談、入院中の方の退院支援等を行っています。初診については、完全予約制でご案内しており日々申し込みが多いため診察予約が数ヶ月待ちの状態が続いております。しかし、緊急性の高い方や入院治療をご希望の方は優先的にご案内可能な場合もございますのでお気軽にお問い合わせください。尚、他医療機関で治療中の方は診療情報提供書(紹介状)が必須となりますので、当院地域医療連携室へ一度お問い合わせの上ご準備をお願い致します。

院長

福治康秀(ぶくじ やすひで)
1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。
1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。
95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。
日本病院・地域精神医学会理事。



診療科

- 一般精神科
- こども心療科
- 物忘れ外来
- アルコール依存症等外来

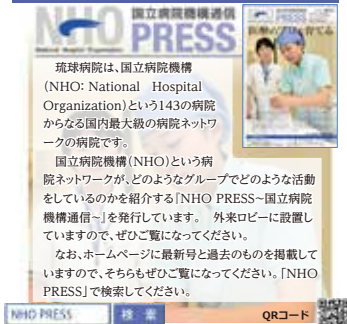
病床数 416床

- 精神科病棟 151床
- 認知症 56床
- アルコール 54床
- 児童思春期ユニット 4床
- 重症心身障がい 90床
- 医療観察法 37床



●アクセス
路線バス/那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖縄バス「17番名護東線」浜田バス停下車徒歩3分
自動車/那覇市から40分
沖縄自動車道金武インターから名護向け5分

NHO PRESS~国立病院機構通信~について



お問い合わせ時間
8:30~17:15(土・日・祝日以外)
TEL: 098-968-2133(代)
内線: 231・234
地域医療連携室(直通)
TEL: 098-968-3550
FAX: 098-968-7370

治療抵抗性精神疾患への医療



クロザピンの治療状況

平成22年から治療抵抗性統合失調症の患者様に対してクロザピン(CLZ)治療を開始し、全症例は延べ273例になりました。令和元年5月のCLZ導入は4例で、このうち2例は他の病院からのご紹介をいただきました入院中の患者様でした。CLZ治療前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために隔離が必要な患者様も多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動も少なくなり、隔離は解除できています。週に3回の専門外来も行っていますので、患者様のご紹介をお願いいたします。

m-ECT (修正型電気けいれん療法) の治療状況

当院では、m-ECT(修正型電気けいれん療法)による治療を行っております。令和元年5月の治療実績はありませんでした。

こども心療科

こども心療科では、県から委託を受けている「子どもの心の診療ネットワーク事業」の一環で、定期的に研修会を開催しています。今回は、トラウマを受けた子どもたちと関わる機会のある支援者を対象に、効果が実証され、いくつかのPTSD治療ガイドラインにおいて子どものトラウマへの第一選択治療として推奨されているプログラムである、トラウマフォーカスト認知行動療法(以下TF-CBT)のIntroductory Trainingを開催します。本研修は、日本におけるTF-CBTの公式トレーニングとなっているため、修了者はTF-CBTセラピストとして積極的に実践していくことが可能です。関心のある方は、お問い合わせください。

研修名:トラウマフォーカスト認知行動療法(TF-CBT)

Introductory Training@沖縄

日 時: 2019年8月24日(土)~25日(日)

両日とも9:30~18:00

会 場: 沖縄県立博物館・美術館(講座室)

定 員: 40名(※先着順ではありません。応募者多数の場合は、TF-CBT実施の準備が整っている受講者を優先させていただきます)

受講料: 40,000円(※振込方法については、受講決定通知時にお知らせいたします)

申込締切: 2019年8月4日(日)

認知症医療

<認知症の方に対するコミュニケーション技法について>

認知症高齢者の方が、症状の悪化により入院や施設への入所となる場合、生活環境が変わること、入院や入所の理由が理解できない事が要因となり混乱することがあります。入浴や排泄の時の介護抵抗や、治療を拒否することも少なくありません。そこで私たちは、物忘れや失敗を頭ごなしに否定したり、教え込もうと説得しないこと(自尊心を傷つけない)、相手の主張を受け入れる態度で接することを心がけ、日々のケアにあたっています。最近では、フランスのイヴ・ジネスト氏によって開発された「ユマニチュード」というコミュニケーション技法が注目されています。見る、話しかける、触れる、立つという4つの方法が柱となっており、例を挙げると「目の高さを同じにする」「優しく背中をさすったり歩く時にそっと手を添える」など認知症高齢者が安心するような接し方で、全部で150以上もの技術があります。病棟においても、これらの技術を取り入れ、専門性ある質の高いケアが提供できるよう努めたいと考えております。

重症心身障がい医療

新棟に移転し、来月で1年を迎えます。病床は80床から90床へ増床し現在84名の利用者に入院して頂いております。入院相談は増加傾向にあり、当病棟へのニーズの高さが伺えます。全国的に地域移行がすすめられるなか、当院においても地域のニーズに応えられるように、治療後は元の生活あるいは次のステップへ進まれるよう支援させていただきます。生活リズムを整え、必要に応じた薬物療法、日中活動の提供、リハビリテーション等、総合的な療育支援を提供致します。また、在宅支援として短期入所も行っておりますのでご相談下さい。

アルコール・薬物依存医療

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い『飲酒欲求』を直接和らげてくれる作用があります。当院では令和元年5月末現在、外来通院の患者様86名、入院中の患者様14名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。また、当院の外来での調査では、レグテクト内服を継続している患者様の方が、治療継続率が高いという結果も出ております。患者様へは、適宜導入を勧めています。断酒が困難な方は、ぜひ外来を受診し相談して下さい。

包括的地域精神医療

令和元年5月の訪問看護件数は761件で、新規申し込みの利用者が5件、入院による訪問終了者が4件でした。月別平均では、平成29年の5月に31件、平成30年5月に32.9件令和元年5月に39件と増加傾向にあります。梅雨も明け、これから本格的に暑い夏を迎えます。気温が高くなると、熱中症を引き起こす頻度が高くなります。汗をかくことで水分や塩分が失われ、家の中にいても熱中症になることがあるため、訪問看護の際は注意喚起の声掛けをさせていただきます。今年の夏も元気に乗り切れるよう、頑張りましょう。そのほか、気になることがありましたらご相談ください。

臨床研究部活動状況

『ADHDペアレントトレーニング複数機関実施における無作為化比較試験
～地域実践の普及に向けて～』OISTとの共同研究のご紹介

2019.7月よりOIST(沖縄科学技術大学院大学)と『ADHDペアレントトレーニング複数機関実施における無作為化比較試験(RCT)』において共同研究を始めることになりました。ADHDの治療について、薬物療法と行動療法を組み合わせた包括的治療が最も効果的であることは報告されておりますが、日本においては薬物療法に関する研究が盛んであるのに対し、心理社会的支援に関するRCTは極めて少ないのが現状です。今回、主任研究機関であるOIST、また福井大学病院、久留米大学病院、当院が共同研究機関として本研究を始めることになりました。ADHDに特化したグループ形式のペアレントトレーニングの効果、地域普及を目指したリーダー養成プログラムの体系化等が期待されます。